

2022年禁止表国際基準のポイントと 2021年発信禁止表注意喚起のまとめ



公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

Ver. 2021.12

1

2022年禁止表国際基準(禁止表)の変更

1. 例示物質名の追加

	分類	追加された例示物質名	理由
常に禁止される 「競技会(時)および 物質と方法 競技会外」	S0. 無承認物質	BPC-157	- ペプチド - 栄養補助食品(サプリメント)等に含まれる
	S1. 蛋白同化薬 2. その他の蛋白同化薬	オシロドロスタット	- CYP11B1を阻害し、血中テストステロンを副次的に上昇させる - クッシング症候群の治療薬
	S2. ペプチドホルモン、 成長因子、関連物質 および模倣物質	ロナベグソマトロピン、ソマブシタン、 ソムアトロゴン	- 成長ホルモンの類似物質 - 国内においても治験が実施されている
競技会(時)に 禁止される 物質	S6. 興奮薬	- エチルフェニデート、メチルナフチデート[(±)-メチル2-(ナフタレン-2-イル)-2-(ピペリジン-2-イル)アセタート]、4-フルオロメチルフェニデート - ヒドラフィニル(フルオレノール)	- メチルフェニデートの類似物質として追加 - モダフィニルおよびアドラフィニルの類似物質として追加

2

2022年禁止表国際基準(禁止表)の変更

2. 許可されていた投与量と投与間隔の変更

S3. ベータ 2 作用薬

2021年禁止表 S3.ベータ2作用薬 (例外)	2022年禁止表 S3.ベータ2作用薬 (例外)
● 吸入サルブタモール(24時間で最大1600 µg、いかなる用量から開始しても12時間で800 µgを超えないこと) ● 吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量 54 µg) ● 吸入サルメテロール(24時間で最大200 µg) ● 吸入ビランテロール(24時間で最大25 µg)	● 吸入サルブタモール(24時間で最大1600 µg*、いかなる用量から開始しても8時間で600 µgを超えないこと) ● 吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量 54 µg) ● 吸入サルメテロール(24時間で最大200 µg) ● 吸入ビランテロール(24時間で最大25 µg) * JADA訳注: 国内で承認された最大吸入量は800 µg/日である。

3

2021年禁止表：WADAの見解

2. 許可されていた

S3. ベータ 2 作用薬

【2021年12月1付通知】

吸入ベータ 2 作用薬のネブライザー(噴霧器)による使用の禁止とTUE申請

[WADAの見解]

- 『S3.ベータ 2 作用薬』を吸入使用として、禁止表において許可された最大投与量を超えて使用する場合は禁止する。
- 吸入使用の一種であるネブライザー（噴霧器）使用は、一般的な吸入器[MDI (Metered Dose Inhalers)とDPI(dry powder inhaler)]が上手く利用できない患者に対しても吸入効率がよいとされ、使用されることがある。尿中閾値が設定されているサルブタモールやホルモテロールをネブライザー使用する場合、アスリートの検体から尿中閾値を超えた濃度を検出する可能性がある。
- WADAは、www.wada-ama.org/en/questions-answers/prohibited-list-qaにある『禁止表Q&A』のネブライザー（噴霧器）使用に関するQ&Aを変更する予定である。

4

2021年禁止表：WADAの見解

2. 許可されていた S3. ベータ 2 作用薬

【2021年12月1付通知】

吸入ベータ 2 作用薬のネブライザー(噴霧器)による使用の禁止とTUE申請

[アスリートに求められる対応]

- 尿中閾値が設定されている『S3.ベータ 2 作用薬』の吸入使用としてネブライザー（噴霧器）を使用する場合は、尿中閾値を超える可能性があるためTUEが必要です。TUE申請の前に、自身の『アスリートカテゴリー』 https://www.playtruejapan.org/athlete/athlete_category.html を必ず確認してください。

5

2021年禁止表：WADAの見解

2. 許可されていた S3. ベータ 2 作用薬

[WADAの見解に基づく Global DRO表示]

Global DROでは治療使用特例(TUE)が必要であることを明示化するため、ネブライザー（噴霧器）使用を『常に禁止』であると表示する。

[Global DROの検索結果]

吸入使用は、『吸入－ネブライザー使用』と『吸入－ネブライザー以外』を区別して表示しますので、必ず投与経路を確認してください。

Global DRO表示例(競技会(時)の場合)

 競技会(時) 禁止 吸入－ネブライザー ネブライザー使用	 競技会(時) 注意!条件付き 吸入－ネブライザー以外 吸入
--	---

※競技会外も同様の表示

6

2022年禁止表国際基準(禁止表)の変更

3. その他の変更

変更内容と該当分類	移動した物質名	理由
分類の移動 "S1.蛋白同化薬"	S1.2その他の蛋白同化薬から S1.1蛋白同化薬へ 移動 ・チボロン	・強力なアンドロゲンとしてデルタ-4-チボロン代謝物へ変換され、アンドロゲン受容体作用することによって、合成経口アンドロゲンとしての臨床効果を有するため
より明確に示すための表示変更 "S6.興奮薬(例外)"	イミダゾール誘導体を イミダゾリン誘導体へ変更	・一般的なイミダゾール誘導体と交感神経模倣作用を持つイミダゾリン類を区別するため
より明確に示すための表示変更 "S6.興奮薬(例外)"	・尿中閾値5 µg/mLのカチン(d-ノルブソイドエフェドリン)と l- 異性体の表示	・カチンがノルブソイドエフェドリンの両方の異性体を含むことを明示するため
国際一般名称の統一 "S9.糖質コルチコイド"	フルコルトロンを フルオコルトロンへ統一	・国際一般名称(INN)を統一して表記するため
スポーツ種目の整理 "P1.ベータ遮断薬"	水中スポーツの種目を 再編成し、記載 した。	・世界水中連盟と調整のうえ、表示を変更するため

7

2021年禁止表：WADAの見解

M2.静脈内注射について

【2021年8月通知】

競技会場等で静脈内注入および/又は静脈注射を行う際の注意喚起

(禁止表原文)

2. Intravenous infusions and/or injections of more than a total of 100 mL per 12-hour period except for those legitimately received in the course of hospital treatments, surgical procedures or clinical diagnostic investigations.

[WADAの見解]

"In the course of hospital treatment" の処置の起点となる状況は、**救急車内で**静脈内注入および/又は静脈注射の**処置を開始した場合のみが対象**となる。

したがって、競技会場等で静脈内注入および/又は静脈注射を開始した場合は、引き続いて病院に搬送されたとしても遡及的TUE申請が必要です。

8

2021年禁止表：WADAの見解

M2.静脈内注射について

[アスリートに求められる対応]

- ・ 競技会場の医務室で静脈内注入および/又は静脈注射を開始し、病院へ移動した場合であっても、速やかに遡及的TUE申請を行う。
- ・ 遡及的TUE申請時に、静脈内注入および/又は静脈注射を要する状況であったことを証明する医療情報を添付すること。

9

2021年禁止表 S9.糖質コルチコイド

2021年12月31日まで有効

糖質コルチコイドの
経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用 はすべて禁止される

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない

- | | | |
|-----------|--------------|-----------------|
| ・ ベクロメタゾン | ・ フルコルトロン | ・ プレドニゾン |
| ・ ベタメタゾン | (フルオコルトロン) | ・ トリアムシノロンアセトニド |
| ・ ブデソニド | ・ フルニソリド | |
| ・ シクレソニド | ・ フルチカゾン | |
| ・ コルチゾン | ・ ヒドロコルチゾン | |
| ・ デフラザコート | ・ メチルプレドニゾロン | |
| ・ デキサメタゾン | ・ モメタゾン | |
| | ・ プレドニゾロン | |

10

2022年禁止表 S9.糖質コルチコイド

2022年1月1日から有効

糖質コルチコイドの

注射使用、経口使用[口腔粘膜(口腔内(頬)、歯肉内、舌下等)を含む]、経直腸使用
はすべて禁止される

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない

- | | | |
|-----------|--------------|-----------------|
| • ベクロメタゾン | • フルオコルトロン | • プレドニゾン |
| • ベタメタゾン | • フルニソリド | • トリアムシノロンアセトニド |
| • ブデソニド | • フルチカゾン | |
| • シクレソニド | • ヒドロコルチゾン | |
| • コルチゾン | • メチルプレドニゾロン | |
| • デフラザコート | • モメタゾン | |
| • デキサメタゾン | • プレドニゾロン | |

11

2022年禁止表 S9.糖質コルチコイド

[2021年4月から適応済-2021年禁止表WADAの見解]

糖質コルチコイドの

注射使用、経口使用[口腔粘膜(口腔内(頬)、歯肉内、舌下等)を含む]、
経直腸使用はすべて禁止される

【2021年4月通知】

- ✓ 2021年から口腔粘膜等への投与も経口使用として禁止
- ✓ 2022年禁止表に明示された

12

2022年禁止表 S9.糖質コルチコイド

2022年1月1日から有効

糖質コルチコイドの

注射使用、経口使用[口腔粘膜(口腔内(頬)、歯肉内、舌下等)を含む]、
経直腸使用は**すべて禁止される**

《禁止される注射使用の例》

静脈内、筋肉内、関節周囲、関節内、腱周囲、腱内、硬膜外、髄腔内、
滑液嚢内、病巣内(ケロイド等)、皮内および皮下

13

ウォッシュアウト期間(Washout period)の掲載

2022年禁止表国際基準主要な変更の要約と注釈より

投与した糖質コルチコイドとその用量によっては、投与後の様々な期間
(日単位から週単位の範囲)にわたり違反が疑われる分析報告(AAF)につな
がることもある。

アスリートは、投与した時点から競技会(時)の開始時点*までに**最低限の
ウォッシュアウト期間**を遵守するべきである。

* 特定の競技についてWADAが異なる期間を承認している場合を除き、競技者が参加する予定の競技会の
前日の午後11時59分に開始

14

ウォッシュアウト期間(Washout period)

体内に吸収された薬物が**ほぼ全て排出される期間**を示す。
 但し、個人差があるので、薬物が完全に排出されることを
保証するものではありません。

15

ウォッシュアウト期間(Washout period)

(参考) 2022年禁止表『主要な変更の要約と注釈』

経路	糖質コルチコイド	ウォッシュアウト期間
経口 [口腔粘膜、口腔(頬)、歯肉、舌下投与を含む]	すべての糖質コルチコイド	3日
	但し、トリアムシノロンアセトニド	30日
筋肉内	メチルプレドニゾロン	5日
	プレドニゾロン、プレドニゾン	10日
	トリアムシノロンアセトニド	60日
局所 (関節周囲、関節内、腱周囲、腱内)	すべての糖質コルチコイド	3日
	但し、トリアムシノロンアセトニド、プレドニゾロン、プレドニゾン	10日

医療従事者への協力依頼:

TUE申請がいつでも対応できるよう医療記録の保持や速やかなご提供をご協力ください。

(ウォッシュアウト期間は参考情報です。TUE申請のタイミングを確認するために使用してください。)

16

2022年監視プログラムの変更

世界アンチ・ドーピング規程 4.5 監視プログラム

WADA は、署名当事者及び各国政府との協議に基づき、禁止表に掲載されていないが、スポーツにおける濫用のパターンを把握するために監視することを望む物質について監視プログラムを策定するものとする。

監視プログラムに掲載される物質は、WADAが監視することを必要と位置付けた物質です。

当該年における禁止物質ではありません

17

2022年監視プログラムの変更

【2021年】

1. 蛋白同化薬：競技会(時)および競技会外: エクジステロン
2. ベータ2作用薬：最低報告レベル未満のサルメテロールおよびビランテロール
3. 2-エチルスルフェニル-1H-ベンズイミダゾール(ベミチル)：競技会(時)および競技会外
4. 興奮薬：競技会(時)のみ
ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、
フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン
5. 麻薬：競技会(時)のみ：コデイン、ヒドロコドン、トラマドール
6. 糖質コルチコイド：
競技会(時) (経口使用、静脈内使用、筋肉内使用
または経直腸使用以外の投与経路)
競技会外 (すべての投与経路)

18

2022年監視プログラムの変更

【2022年】

1. 蛋白同化薬：競技会(時)および競技会外: エクジステロン
2. ベータ2作用薬：最低報告レベル未満のサルメテロールおよびビランテロール

削 除

3. 興奮薬：競技会（時）のみ

ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、
フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン

4. 麻薬：競技会（時）のみ：コデイン、ヒドロコドン、トラマドール

削 除

19



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチドーピング機構

20